

第1回徳島県高校教育改革推進本部会議報告

主な議事内容

学校の教育方針等の情報提供，ICT機器の活用について

- 委員 総合教育センターでは，情報教育の研修についても力を入れ，ICTの活用により学力向上につながる研修，情報モラル教育や校務の情報化の推進に関する研修などを行っています。さらに，すべての学校におけるホームページの充実にも力を入れています。
- ホームページの携帯バージョンやメールマガジンによる情報提供をしてほしいとの保護者のニーズがあるようですが，ホームページの作成に関する研修の中に，携帯電話を利用した情報提供という項目を加え，研修の充実を図りたいと考えています。
- 教育情報ネットワークでは，現在，各校のポータルサイトやメーリングリストを用意し，メーリングリストについては総合教育センターが管理していますが，これからは各学校で管理できるよう9月を目途に作業を進めています。学校独自で管理できるようになるので使い勝手が便利になり，有効活用の基盤が整うと考えています。この点は，各学校に対し広報も行い，情報担当者や管理職の研修の際にも案内をしています。
- 委員 ハード面の整備については，新たに設けられます「学校ICT環境整備事業」と「地域活性化・経済危機対策臨時交付金」を活用することにより，デジタルテレビやコンピュータ等のICT環境の整備がかなり進められると思います。
- 本部長 ICT機器を教育活動の中にどのように取り入れるか，どのように子どもたちが使いこなせる状況にしていくかが，各学校共通の課題だと思えます。
- もう一つの課題は，先生方がICT機器を活用し，いかに事務処理を効率的に行うかということです。また，県教委からは，様々な調査を学校にお願いしていますが，事務処理を軽減するため，例えば，フォーマットを作っておき，入力すれば自動的に送信されるシステムなど，具体的に検討していく必要があると思います。
- さらに，将来ハード面が整備されれば，単位制高校で実施している生徒の出欠状況に関する集計作業などの教務システムを，単位制高校以外にも導入できないか検討する必要も出てくると思います。
- 委員 保護者から，学校の配布物も配信してほしいと言われたことがあります，家庭で食卓を囲み，学校からのプリントを見ながらいろいろと学校の話をするのも大切であると考えています。

本部長 教育目的であるということを，しっかりと押さえた上で活用する必要があります。こうした先進的な取り組みは，各学校でも平準化し，その効果を共有化していくことが必要になってきます。総合教育センターでも，各学校が統一して取り組んでいけるようお願いします。

オンリーワンハイスクール・パワーアップ事業について

委員 オンリーワンハイスクール事業は平成16年度から開始し，今年で6年目を迎えます。本事業は，単年だけでなく，3年ごとにも検証を加えながら実施しており，現在は，「地域連携」，「芸術・文化」，「学術・技術」といった3つのテーマの中から，各校独自の計画を募集し，指定校を選定してその活動を支援することになっています。今年は区切りの年に当たることから，来年度以降はどのような形で事業を実施していくのか検討することにしています。

なお，予算については，最近かなり厳しくなり，今年度は全体で1,200万円になっています。その配分については，外部の審査員も入れた評価委員会でご審議いただき，支援校には計画内容に応じて重点的に配分しています。

また，支援期間の限度については，これまで十分に支援し実績が上がってきた学校は，自立校という形で県の支援を受けず学校独自に活動していくということを事業の理念としているため，長期間の継続的支援は難しいと考えています。

委員 予算を重点配分された学校は十分な取組ができますが，その他の学校では，校外に出て取組を行うにしても，徒歩という訳にはいかず，やはりバスが必要になります。生徒に個人負担してもらわなければ，事業を実施したくても実施できないという状況があります。

委員 今は重点配分せざるを得ない程の少ない予算額となっていますが，各学校にはそれほど大きな予算を必要としないけれども，独自の事業として行いたいことが沢山あるということを認識しておいてほしいと思います。

本部長 本事業を行う中で，体験的，特色ある取組の価値が見直され，各学校ではいろんなことをやりたいという気運が高まってきているのだと思います。

生徒の体験不足により，生きる力が弱まっているという考えもあります。ところが，体験的な学習を強化するには経費がかかり，学校現場ではいろいろと苦労をしています。それをどうやって県教委としてサポートできるか考えていかなければなりません。

財政的には厳しい状況ではありますが，本事業以外にも，それぞれの部署において，学校のニーズも踏まえ効果的な事業を積極的に検討してください。

キャリア教育について

委員	<p>高校でのインターンシップは、平成20年度には574の事業所で受け入れていただいております、学校数としては全体の51.1%、全日・定時・通信制の課程別で23校が実施しています。最近の経済情勢を反映して受入企業数は減少傾向にありますが、県教委としても各事業所にインターンシップの受入をお願いしたり、商工労働部と連携し、長期間のしっかりとしたカリキュラムに基づくモデル的なインターンシップ事業の実施を計画しているところです。</p> <p>また、協力企業に対しては、表彰制度のようなものを考えています。産業界の協力が得られるよう努力してまいります。</p>
本部長	<p>キャリア教育は、小学校、中学校、高校とそれぞれの段階に応じて行いますが、専門高校ではインターンシップを充実させ、生徒の進路希望に応じて受入先を確保しています。</p> <p>しかし、現在の経済状況では、学校の努力だけで生徒が希望する受入先を確保することは難しいので、県庁内でも連携し支援してほしいと思います。</p>
委員	<p>専門高校では、1年生の時から専門的な学習をすることが、自分の進路決定に向けた学習へとつながりますが、普通科では、大学等への進学者が多く、ほとんどの生徒が社会とはいかなるものか知らないまま進路を選び、後でこんなはずではなかったと思う生徒もいるのではないのでしょうか。</p> <p>普通科でも、インターンシップのようなキャリア教育をしっかりとさせた上で社会に出していかなければと思います。</p>
副本部長	<p>高校から大学など上級学校へ進学する者も、最終的には仕事に就き、社会に貢献することから、自立した子どもを育てていかなければなりません。普通科でも教科の点を取るだけの価値観に偏らず、自分の就きたい職業へとつながり、社会に貢献する学習も重視しなければならないと思います。それができていなければ、大学等に行ってもフリーターやニートになってしまうことがあると思っています。</p>
副本部長	<p>小・中学校の場合は、キャリア教育がすぐに職業等に結びつくというのではなく、キャリア教育は道徳教育のような生き方教育、自分を見つめる教育だと思います。</p> <p>職場見学や職場体験などを通して、家族の仕事、今の自分と将来の自分を考えさせ、さらに「どう生きていくかということ」へと考えをつないでいくという点から、小学校でも中学校でもキャリア教育は大事だと思います。</p>

入学者選抜制度の改善について

委員

入学者選抜制度については，入学者選抜制度改善検討委員会でご審議いただき，現在，2つの改善案が示されています。

前期選抜要件アの学習活動面を重視する選抜を一般選抜に1本化した上で，1案では特色選抜と一般選抜を3月に一括して実施し，2案では特色選抜を2月に実施した上で，一般選抜を3月に実施することとしています。現在，このことについては，パブリックコメントを実施したり，議会でご審議いただくことしておりますが，中学校や高校からも様々な形で，意見を聴取しているところです。

なお，両案ともに，「確かな学力」と「生徒の個性」という2つの理念を引き続き尊重していきたいと考えています。

本部長

現在の高校入試制度には，中高の教員が煩雑な入試事務に時間を割かれ，生徒としっかり向き合う時間が確保できないといった課題があります。

また，中学校によって違いはありますが，前期選抜で7～8割の生徒が合格する学校もあり，その中で，前期で不合格となった2～3割の生徒にとっては，落ち着いて後期受検に向かえないといった課題もあります。

これらの課題を解決するために，入学者選抜制度改善検討委員会では2つの案が示され，その中では，学習活動面を重視する選抜を3月に一本化することや，生徒の個性を伸ばすという考え方から現在の前期選抜の要件イ・要件ウといった特色選抜は，引き続いて残していくことにしています。

なお，その制度設計については，現在の制度を十分に分析・評価しながら，どういう形で残していくのかしっかりと検討を行い，新しい入試を受検することになる今の中学2年生が動揺することがないように，今年秋頃までにその内容を示していきたいと考えています。

教職員組織の活性化について

委員

副校長等の新たな職の設置について，先日の高校教育改革推進委員会では，大変有効であるとの意見をいただいています。

昨年度は「教員の勤務負担軽減に関する調査研究事業」において，今年度は「学校マネジメント支援に関する調査研究事業」において，新たな職を設置した学校のマネジメント機能の強化による校務分掌の見直しなどについて調査研究を行っています。

今後，調査研究の成果や各校からの意見を踏まえながら，副校長等が計画的に配置できるよう進めていきたいと考えています。